

MACF 礼拝説教要旨

2021年5月23日

「聖霊が降った日」

2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、

2:2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。

2:3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。

2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

2:5 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、

2:6 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。

2:7 人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。

2:8 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。

2:9 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、

2:10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、

2:11 ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

2:12 人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。

2:13 しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。

2:14 すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、

またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。

2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているのではありません。

・・・

2:22 イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりです。

2:23 このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。

2:24 しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。

・・・

2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

2:37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。

2:38 すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

2:39 この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、

つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

2:40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。

2:41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。

+++++

今日はペンテコステと呼ばれる5旬節。

この5旬節とは過越の祭の50日後のことで「初穂の祭」が行われ（レビ23:16）その祭りは収穫を祝うためのものであり、

『旧約聖書』では刈入れの祭あるいは七週の祭とも呼ばれました。

初穂の祭りにふさわしく、素晴らしい「収穫の喜び」を使徒たちは味わうことになります。

約束の聖霊が降ったのです。

それはイエス様が約束しておられた大事な出来事でした。

ルカによる福音書の最後の場面には弟子たちとの時間が描かれています

24:45 そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、

24:46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』」

24:47 また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。

エルサレムから始めて、

24:48 あなたがたはこれらのことの証人となる。

24:49 わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。

高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

24:50 イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、

手を上げて祝福された。

24:51 そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。

24:52 彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、

24:53 絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

+++

そしてその後半にあたる使徒言行録では

1:3 イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。

1:4 そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。

「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。

1:5 ヨハネは水で洗礼を受けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を受けられるからである。」

1:6 さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。

1:7 イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。

1:8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

1) 約束の聖霊

ヨハネによる福音書では「真理の御霊」と呼ばれ「もう一人の助け主」「弁護者」「慰め主」と呼ばれている聖霊がいよいよ弟子たち一人一人の上に滝のように降り、証人としての役割を十分に果たすことができるための力を与えられるということです。

福音宣教というような大それたことでなくても、イエス様は私の救い主、助け主という事柄についてで

さえなかなか思うように人に話すことはできません。変な自慢話になってしまいそうだったり、宗教の押し付けをしていると誤解されてしまいやすいからです。

2) 聖霊降臨

「炎のような舌」が現れたと記録されていますが、これは、言葉を意味しているのだらうと思います。聖霊によって「語るべき言葉が教えられる」「どんな国言葉だとしても、それぞれに語られるべき言葉がある」

しかも、まるで自分でないかのような「大胆さ」が表現されるのです。

ペトロの説教がここに書かれています。

今までイエス様を裏切ったことでの心苦しきや、反対者に見つかってしまう恐ろしきをもっていたので部屋に鍵をかけてひっそりとしていたペトロ、そして他の弟子たち。

ところが聖霊を受けて、彼らは大胆に、おそらく自分で学んだことのない他国の言語も含めて神の偉大なわざを語り始めたのです。

3) 大胆な説教要旨

ペトロは人々の前で大胆に説教しています。

2:14 「声を張り上げ、話し始めた。」

2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。

あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

2:40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし

これらの姿勢はそれまでのペトロには見えていなかった資質です。

突然、立派な説教者が誕生したような雰囲気を感じます。

内容は単純でした。その要旨は

A)

ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおります。

2:23 このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうへで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。

2:24 しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。

B)2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。

あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

要するに「イエスは主であり、救い主」ということです。

このお方にこそ罪の赦しと神との関係回復の道があるのだということです。

C) 旧約聖書の引用

ペトロは説教の中で旧約聖書を引用して語っています。ヨエル書の預言の言葉とか王ダビデの言葉とかを用いて説明しています。

こういう知恵はどこからきたのでしょうか。

ペトロが必死になって調べ上げて説教を作ったとは考えにくいです。

つまり、聖書の奥義を心に深く印象つけてくださるのは聖霊の働きによるということなのです。

説教者が不要ということではありません。

しかし、説教者が絶対的なことを裏付けるのではなく、説教者の言葉を用いて

聖霊が聞き手の心に響かせてくださるのです。

あー、今日の説教、自分のことを言われたような気がするということがあったとすれば

それは聖霊があなたの心にそれを指し示してくださったと考えるべきです。

私があなただけのことを考えて、あなただけのために礼拝説教を作ることはありません。

いいえ、できません。

もし、そういうことがあるなら私は説教という形ではなく、個人的にあなたに何かを伝えたいと思います。

でも、公に語られている聖書の説教を通して自分の心に響く何かがあったとすれば、

まさに、聖霊が私たちの心に何かを示してくださったのだと信じて良いと思います。

説教者の知恵も能力も必要ではありますが、あなたの心に語り、訴え、あなたを変えるほどの力があるのは神様ご自身であり、聖霊の働きによるのです。

4) 聖霊はあなたにも降っている

2:37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、

「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。

2:38 すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい

、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

とありますように、聖霊は信じるあなたの心に賜物として与えられているのです。

つまり、キリストによる取り扱いを味わい、それを理解し、それを分かち合うための力はあなたの中に備わっており

同時に、そのお方による慰めや励ましを受けつつ生きられるのです。

パウロはエフェの信徒への手紙の中で

1:13 あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。

1:14 この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

聖霊はあなたの中にいてくださいます。また、外からも風のように吹き付けて、神の恵みをわからせてくださいます。

イエス様はヨハネによる福音書によれば「聖霊」を「もう一人の助け主」「慰め主」「真理の御霊」「弁護者」と教えてくださっているのですが、そのお方が私たちの心に来てくださっているのです。

私はひとりぼっちではない。

私には主イエスの名を唱えることができ、聖霊が私たちを丸抱えしてくださっていると信じて今週を進めてまいりましょう。